

大人の教会学校(於:光カトリック教会 肥塚神父)資料 2020年9月

【ミサを生きる】(1)

※神との出会いの場

ミサにおいて儀式的に具現化されているキリスト教の信仰とはどのようなものであるのでしょうか。カトリック信者たちが日曜日ごとに通う教会は、広く言えば、神との出会いの場であると言えます。キリスト教の信仰を生きる信者たちは、日曜日の教会のミサにおいて彼らが信じている神と出会っているのです。

直ちに目には見えない神はミサの中に現存され、ミサの儀式においてその現存のお姿をしめしておられるのです。ミサの中で朗読される聖書は、ミサの中に現存しておられる神がどのようなお方であるかを語る、教会に伝えられてきた神への信仰の書です。

イエス・キリストは、ミサの中で朗読される福音書を通して、ミサに参集している人々に、今もそのみことばを語り聴かせておられるのです。ミサの中で朗読される福音書を通して、今もその現存のお姿を示され、そのみことばを語り聴かせてくださるイエス・キリストを自分たちに向けられたみことばとして受け入れ、それに従って生きるよう努めることによって、信者たちはイエス・キリストの後に従うイエス・キリストの弟子となるのです。

(省略:聖体拝領による「神との出会い・一致」)

※神との関係の中に生きる

神を信じて生きるということは、自覚的に神との関係の中に生きるということです。自分自身と自分が生きるこの世界が、神との関係の中にあることを信じて生きることが、神を信じて生きるということです。

創造主である神と神の被造物である私たちの関係を受け入れて生きることが、天地の創造主である神を信じるということです。キリスト教の信仰においては、私たちは神によって創造された被造物であるのです。神とのこの関係こそが、私たちに与えられている神からの最も大いなる恵みなのです。私たちは万物の創造主である神の恵みによってこの世界の中に生きているのです。このことに気付くとき、私たちのうちに創造主である神への感謝が湧き起こってくるはずです。

同時に、日ごろの自分たちの生き方を反省するなら、神の被造物である自分たちが、神への感謝を忘れて生きていることへの悔悟の念が生じてくるはずです。そのような私たち

のありようにもかかわらず、神は私たちに対する態度を変えられることはありません。そのことに心底気付くとき、私たちの悔悟の念は一層真実のものとなり、私たちのありようをゆるしてくれる神への感謝の思いは一層深くなります。

このような思いをもって、私たちは神のみ前に出なくてはなりません。カトリック信者にとって、ミサはこのような神との出会いの場なのです。神によって生かされている自分自身に気付き、神のみもとに立ち戻って、創造主である神への感謝をささげるために、カトリック信者たちは日曜日のミサに集うのです。

(参照:「ミサの鑑賞—感謝の祭儀をささげるために—」吉池好高 オリエンズ宗教研究所)